

林床に両母種と混生しているが、個体数は少ない。また本雑種はイワヘゴモドキ (*D. × mayebarae* Tagawa) に近似する。しかし、羽片鋸歯の形態がキリシマイワヘゴ的であること、羽片に短い柄を有すること、鱗片がより密に着き、辺縁の刺状突起が多いことから区別できる。さらにイヌワカナシダ (*D. × yuyamae* Kurata) とも類似するが、それとは葉柄と葉軸がわら色となること、鱗片が密につき、その形態が違うことから区別できる。

3) キリシマワカナシダ (新称, Fig. 3) キリシマイワヘゴとワカナシダとの雑種と推定され、胞子は不定形であるが、時に正常と思われるものがまじる。本雑種はオオスマイワヘゴ (*D. × pseudocommixta* Kurata), ミイケイワヘゴ (今回発表) とに近似するが、前者に比べ葉身はより小さく、草質、羽片には短い柄があること、基部裂片は独立するか深裂すること、鱗片はより密につき、刺状突起も多いことで区別できる。後者とは葉柄と葉軸が紫褐色～暗褐色となること、鱗片は披針形となり多少ねじれること、包膜はより明確であることで区別できる。

4) ミイケイワヘゴ (倉田新称, Fig. 4) ツクシイワヘゴとキリシマイワヘゴとの雑種と推定されるもので、胞子は不定形である。故倉田博士によりミイケイワヘゴと仮称され、御池から小池にかけて両母種と点々と混生している。時にオオスマイワヘゴと混同されることがあるが、葉柄と葉軸がわら色となり、鱗片は葉柄と葉軸に密に着き、線状披針形で辺縁の刺状突起はより多いこと、下部羽片はほとんど縮まないこと、葉脈が表面で凹まないことから区別できる。

本研究に際して標本の検討を許された京都大学理学部 (KYO), 東京大学農学部 (TOFO), 国立科学博物館 (TNS) の標本室の皆様へ深く感謝いたします。またご指導いただいている東京農業大学中村武久先生、資料収集に際してお世話になった乙益正隆先生に厚く御礼申し上げます。

○高等植物分布資料 (111) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (111)

○ツクバネウツギ *Abelia spathulata* Sieb. et Zucc. 鹿児島市の山下勝氏から送られた同県川辺郡 (薩摩半島) 産の標本は、萼片数、蜜腺の形などからツクバネウツギであった。これまで宮崎県、佐賀県までは知られていた。標本は国立科学博物館に納めてある。
(国立科学博物館 金井弘夫 Hiroo KANAI)